

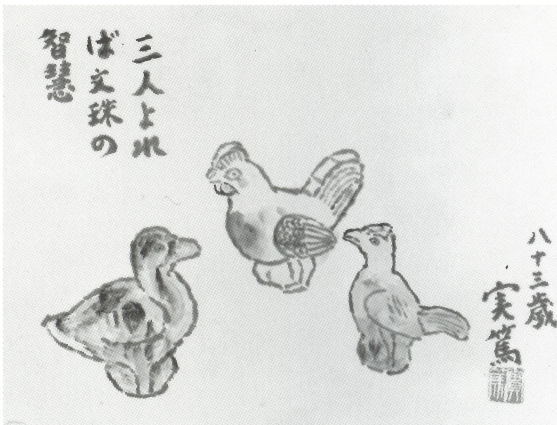
もっと知りたい 武者小路実篤

実篤と家族 3

武者小路実篤は子どもたちそれぞれの性格や、得意なこと、不得意なことなどをよく知っていて、その個性を認めていました。

また、小さくても一人の人間なのだから、と、どんなことでも子どもの気持ちを尊重しました。

三つの鳥の置物はそれぞれ形が違うけれど、とても仲がよさそう。実篤の三人の子供のようですね。



鳥三つ 武者小路実篤 1968年

左から実篤、三女・辰子さん、長女・新子さん、次女・妙子さん、安子夫人 昭和12年（1937年）



自分が生まれたという事も、親の愛、親への愛だけでも、僕は生れた事をよかったです思っている。そして娘達も、そう思っほしいと僕は思っている。

〔一人の男〕第一七九章

上はもっと小さい時にはパパっ子と言われていたし、自分でもそう言っていた。(中略) 体質も僕に似ている。神経の動きの速度も僕と同じだ。

〔牟礼随筆〕より「子供たち」

妙子は母親似で(中略) 人のいい事は無類で僕は妙子には一度も怒った記憶はない。

〔一人の男〕第八六章

(下の子は) この子は十一だが非常に神経過敏な児なので、僕の子供の時に実に似ている。

〔牟礼随筆〕より「遺伝」





安子夫人スケッチ「実篤と辰子」
昭和16年(1941年)ころ

ある日、辰子さんが大好きなミニカンを食べて思わず「ああ、このミニカンでよみがえった」と言ったら、パパから「なんだ。お前はよみがえったらいったい何になるんだい？」とするどい突っ込みが。
辰子さんはウツとつまって「ウ…、ウ…、ウ…頭をぶつよ！」



実篤と三女・辰子さん(10歳ころ)

なぜパパは子供の言い分を通し
てしまうのだろうか。(中略)パパ
が断乎^{だんこ}としてその時の姉の言うの
を退^{しりぞ}けて、「トルストイ全集」を
買ったなら良かったのに…:…と思っ
てしまう。
父は何ごとによらず本人の考え
を先行させるらしかった。
本人が要求しないことは、良い
と思ってもすすめる気はないらし
かった。

(武者小路辰子「ほくろの呼鈴」より「勉強」)

あなたは
あ？

あなたの家族が今頑張^{がんば}っている
ことは何か、知っていますか？
あなたが今頑張^{がんば}っていることは
何か、家族は知っていますか？

家族と話してみませんか。



かけっこの苦手な私が運動会に
行く朝、父は「ビリ等、バンザー
イ」などと言って見送ってくれる。
ついでにつけ加えると、ビリに
なるな、とか、がんばれとかは言
わない。

(武者小路辰子「ほくろの呼鈴」より「見送り」)